



平成 30 年（2018 年）4 月 27 日

各 位

会 社 名 フォスター電機株式会社
 代表者名 代表取締役社長 吉澤博三
 (コード6794、東証1部)
 問合せ先 IR・法務部長 山本有三
 (TEL: 042-546-2305)

通期業績予想と実績の差異及び特別損失の計上に関するお知らせ

平成 30 年 1 月 30 日に公表しました平成 30 年 3 月期の通期業績予想と本日公表の実績値との差異及び特別損失の計上についてお知らせします。

記

1. 通期業績予想と実績値との差異について

(1) 平成 30 年 3 月期連結業績予想と実績値との差異 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	190,000	9,500	9,500	6,500	252.63
今回実績 (B)	184,800	9,307	9,062	4,265	165.78
増減額 (B) - (A)	△5,200	△193	△438	△2,235	
増減率 (%)	△2.7	△2.0	△4.6	△34.4	
(ご参考)前期実績 (平成 29 年 3 月期)	160,896	2,963	3,017	1,088	41.16

(2) 差異の理由

通期連結業績におきましては、売上高、営業利益及び経常利益は、主要顧客向けヘッドセットの出荷が計画を下回ったことから減少しました。親会社株主に帰属する当期純利益については、下記記載の特別損失の計上により前回予想を下回りました。

2. 特別損失の計上について

ハイエンドモデルのスマートフォンを中心に携帯電話販売が減速している等、当社を取り巻く環境は厳しさを増しています。

こうした事業環境を踏まえ固定資産の将来の回収可能性を検討した結果、平成 30 年 3 月期に減損損失 1,850 百万円を計上しました。

なお、当社グループでは今後も引き続き市場変化を捉えた営業活動による受注確保と、業務効率や生産性の向上及び資材費削減等の原価低減活動に取り組んでまいります。

[注] 業績予想に関する留意事項

上記の業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報等に基づいて算定しておりますが、多分に不確定な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績結果は、状況の変化など様々な要因によって上記予想・見込みとは異なる場合がありますので、ご承知おきください。

以 上